

R3 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (音 楽)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏技能を十分定着させる指導が必要である。 ・リズム打ちや手遊びなどを多く取り入れた指導が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏技能の定着を図るため、スモールステップでの授業展開を工夫する。 ・みんなの前で歌ったりリズム打ちをしたりすることで、みんなのできる喜びを多く体験させる。 ・鍵盤ハーモニカの指の動きを声に出しながら繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童については、個別に指導する。(補充) ・学習の流れをスムーズにし、活動時間を多くとる。(発展)
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現や友達との関わり遊び等、多様な音楽活動を行い、音楽に親しみ伸び伸び表現する指導を多く取り入れる。 ・鍵盤ハーモニカの技能面に、個人差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声や発音の仕方に気を付けて、きれいな声で歌えるよう指導していく。 ・技能面では、スモールステップで授業展開をし、友達同士の教え合いも取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの技能が遅れている児童には、個別指導を行い、段階的に教えることで、習熟を図る。(補充) ・グループで演奏することを取り入れるようにする。(発展) ・友達同士の教え合いを取り入れる。(発展)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーや鍵盤ハーモニカで、技能の上達に時間を要する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習時間を多くもうけ、一人一人基本を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し指導し、理解を深めさせるようにする。(補充) ・一人ずつ発表する時間をもうけることで、自分の音を確認できるようにする。(発展)
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーに関して、技能の上達に時間を要する児童がいる。 ・音符の長さ、記号の意味に関して随意復習していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに教え合いながら、練習できる指導環境をつくる。 ・音符の長さやリズムの違いを、楽曲と照らし合わせたり身体表現したりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し指導し、理解を深めさせるようにする。(補充) ・児童同士の教え合い、助け合いながら技能の向上を図る。(発展)
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの技能に個人差がある。 ・歌唱指導においては、意欲的に取り組み2部合唱を楽しんでいるが、互いの音を聞いてよりよいハーモニーをつくるのが難しい箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が手本を示すなどして、技術の向上を図る。 ・互いに聴き合い、意見交換する時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題がある児童に対して、休み時間や放課後に時間をもうけ指導する(補充) ・互いに教え合える環境づくりを常に心がける。(発展)

第6学年	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的な技能に課題がある児童がいる。・ 課題に対して積極的に取り組む児童と消極的な児童がいる。	<ul style="list-style-type: none">・ 教師が手本を示すなどして、技術の向上を図る。・ 課題の提示の仕方や選曲を工夫し、興味や意欲がわくようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ 課題がある児童に対して、休み時間や放課後に時間をもつて指導する（補充）・ 互いに教え合える環境づくりを常に心がける。（発展）
------	--	---	---